

◆生育状況について

生育は、昨年より7日程度早い。果実肥大は平年並みに推移している。

◆当面する重点作業について

1. 見直し摘果を実施し、品質向上を図る。
2. 土壌が乾燥すると日焼けを助長するため、かん水や葉面散布などの対策を実施する。また、草丈を長すぎず、短くしすぎないようにする。多雨による根痛み対策として、排水対策に努める。
3. 徒長枝整理、支柱立てを行い、受光体制、薬剤の掛かりやすい、風通しのよい状態にする。
4. 鳥害対策を行う。
5. ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を実施、雑草対策をする。
6. 降雨続く、降雨時間が長い場合は、炭疽病・輪紋病・斑点落葉病などの発生が心配される。また、スモモヒメシンクイ対策を含め、薬剤散布は散布間隔に注意し、適期に薬剤散布を実施する。

◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第10回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g

+

【カルシウム欠乏対策】

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットII	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

- 1. 使用時期：単用使用で月2～3回散布
(薬剤散布に混用する場合は、混用数が多くならないように注意する。
- 2. 使用資材：調合量1000当り

資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ70	500倍	200g

◆第10回薬剤散布について

- 1. 散布時期：7月22日(水)～26日(日) 実際散布月日 月 日
- 2. 使用薬剤(混用順記載)※調合量1000当り・10a当り散布量：6000以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
フリントフロアブル25	2,000倍	50ml	前日	黒星病・斑点落葉病・すす班病・ すす点病・輪紋病・炭そ病・褐斑病
ベルクトフロアブル	1,500倍	66ml	前日	
マイトコーネフロアブル	1,000倍	100ml	前日	ハダニ類
㊞バリアード顆粒水和剤	4,000倍	25g	前日	キンモンホソガ・シンクイムシ類

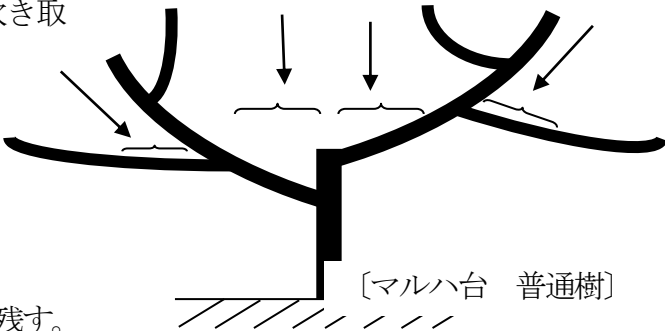
- 3. 散布上の留意事項
 - 1) 早生種が無い場合は、マイトコーネフロアブルに代えて、カネマイトフロアブル(水1000当り100ml・収穫7日前まで)を使用してもよい。
 - 2) ナシヒメコン設置園(モモシンクイガ対策)又は、シンクイムシの発生が心配される場合は、㊞バリアード顆粒水和剤を2,000倍(水1000当り50g)で使用する。
 - 3) ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤1,000倍(水1000当り100ml)を加用散布又は特別散布する。展着剤不要。なお、高温時並びに展着剤使用で、薬害が発生するため注意する。

◆心かび果(心腐れ果)対策について

シナノリップの心かび病では、地色の抜けと着色が早い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。シナノリップは、7月中旬頃を目安に確認実施する。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆新梢管理について

- 1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝(新梢)は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。
⇒ 計画的に切り(欠き)取る。
- 2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。
お盆の頃に切り取る。
- 3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝(新梢)の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。
- 4. 図の矢印部分(主枝・亜主枝の基部)の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆早生品種の鳥害対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害を防ぐ。
2. 鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。
 なお、使用する場合は周辺の環境に留意する。特に住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はやめる。住宅地より200m以上離れた所で使用する。

◆サンつがる落果防止・軟質果防止剤の散布について

【ストッポール液剤】の場合

1. 散布時期：収穫開始予定日の25日前頃（7月19日～25日頃）実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（展着剤不要）※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：400～500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前
ストッポール液剤	1,000～1,500倍	100～66mℓ	25～7日前

3. 品質向上のため、下記のいずれかの葉面散布肥料を使用する。

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100mℓ
ケルパック66	500倍	200g
友果	500倍	200g

4. 散布上の留意点

- 1) 樹勢が弱い場合や、過熟果になりやすい場合は、ストッポール液剤を1,500倍で使用する。

【ヒオモン水溶剤】の場合

1. 散布時期：収穫開始予定日の14～7日前頃（8月1日～7日頃）実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（展着剤不要）※調合量100ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前
ヒオモン水溶剤	1,000倍	100g	25～4日前

3. 散布上の留意点

- 1) 品質向上のための葉面散布肥料は、事例が無いため小試験（ストッポール液剤項を参考に）を実施するか、使用しない。
- 2) ストッポール液剤と異なり、着色増進効果は期待できない。硬度の影響は年の条件によって異なる。熟度促進は、ないあるいはやや進む程度。
 落果防止効果の継続は、短くなる事が推察され、本格的な落果が始まると、続くため収穫を急ぐ。
 散布から30日以上経過した場合、落果が多くなる場合がある。

◆シナノリップ収穫出荷会講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
7月27日	月	午後 2:00	更北 真島フルーツセンター	根津
7月28日	火	午後 2:00	篠ノ井 篠ノ井西部流通センター	徳武・佐藤
			若穂 若穂果実流通センター	寺澤

